

こども・子育て支援に関するニーズ調査等結果（就学児童用）について

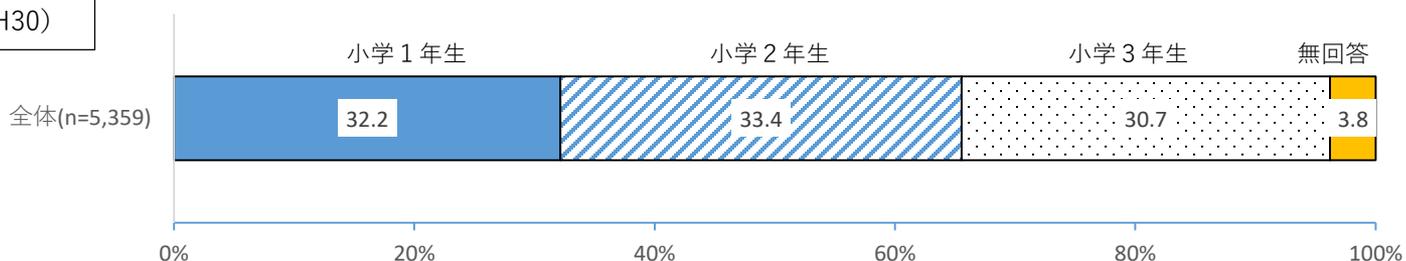
◆調査方法と回収状況

実施調査	大阪市こども・子育て支援に関するニーズ調査
	就学児童用
対象者	市内に在住する就学児童（小学1年生～3年生）の保護者
	住民基本台帳等から無作為抽出した12,000人（ただし、きょうだいで抽出された家庭については、複数の調査票が届かないよう調整したため、調査票送付数については、11,918通）
調査方法	調査対象者に調査票を郵送により配布し、郵送により回収。
調査期間	平成30年11月30日～12月21日
回収状況	有効回答数 5,359人（有効回答率 45.0%）
	（平成25年調査）調査対象数 10,000人 有効回答数 4,771人（有効回答率 47.7%）

回答家庭のプロフィール

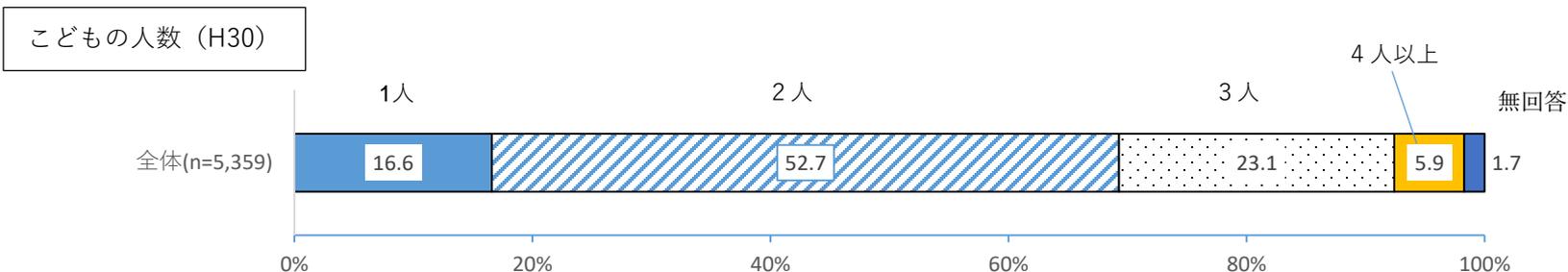
▶ あて名のこどもの学年は、「小学1年生」が32.2%、「小学2年生」が33.4%、「小学3年生」が30.7%となっている。

年齢別割合（H30）



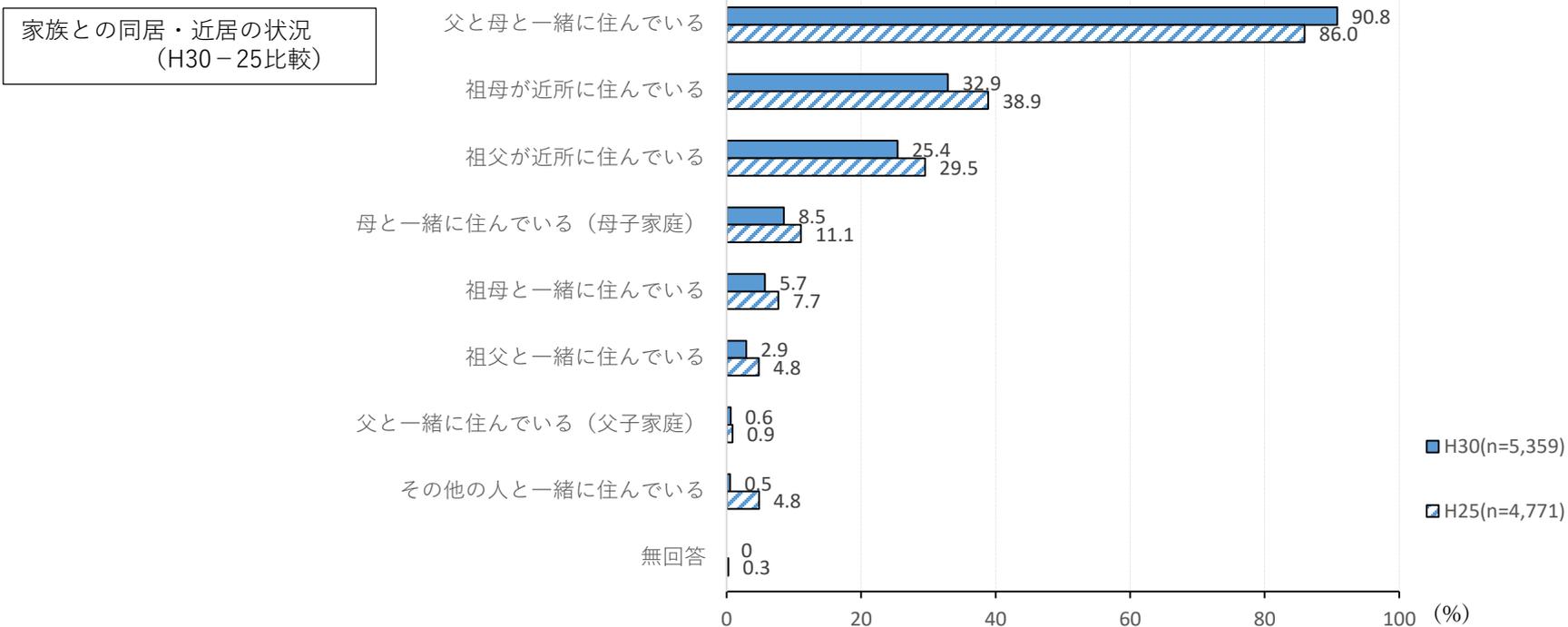
回答家庭のプロフィール

▶ こどもの人数は、「2人」が52.7%で最も多く、次いで「3人」が23.1%、「1人」が16.6%となっている。



▶ 家族との同居・近居の状況は、90.8%が父母と一緒に住んでおり、「祖母が近所に住んでいる」が32.9%、「祖父が近所に住んでいる」が25.4%となっている。

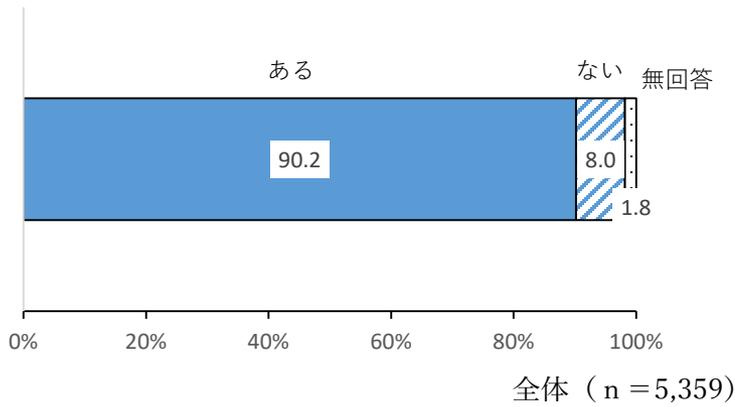
▶ 平成25年調査の結果と比べると、「祖母が近所に住んでいる」、「祖父が近所に住んでいる」の割合が低くなっている。



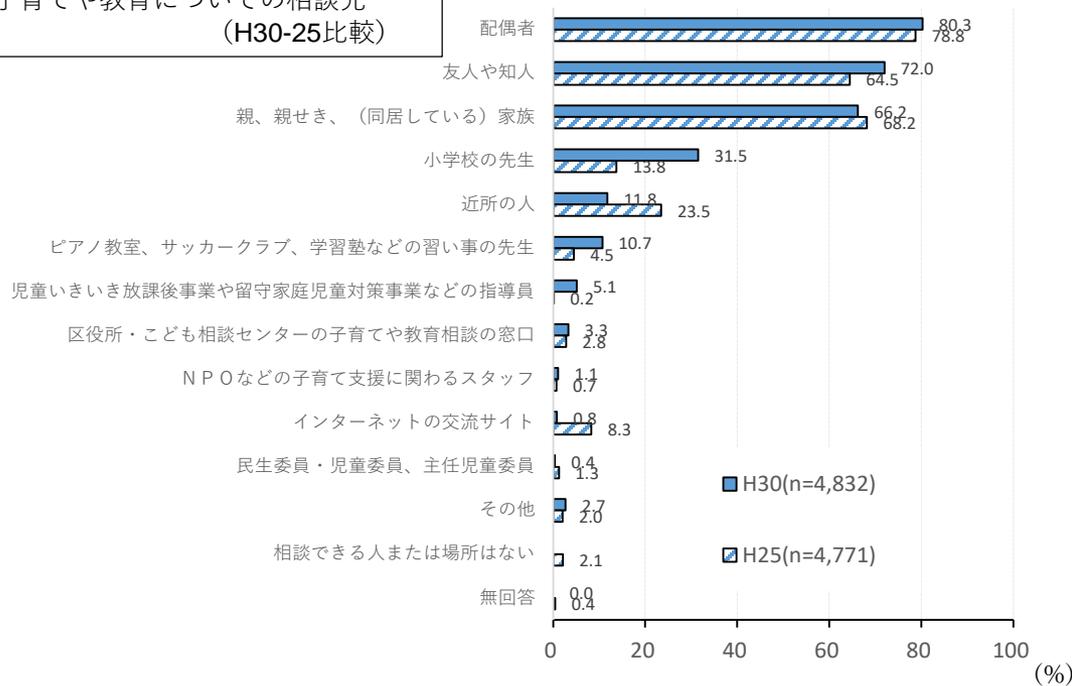
子育てや教育について気軽に相談できる場所の有無/相談先

- ▶ 子育てや教育について気軽に相談できる場所の有無については、「ある」が90.2%、「ない」が8.0%となっている。
- ▶ 相談先は「配偶者」が最も多く、次いで「友人や知人」「親、親せき（同居している）家族」が多い。
- ▶ 平成25年調査の結果と比べると、「小学校の先生」の割合が17.7ポイント高くなっている。

子育てや教育について気軽に相談できる人または場所の有無 (H30)



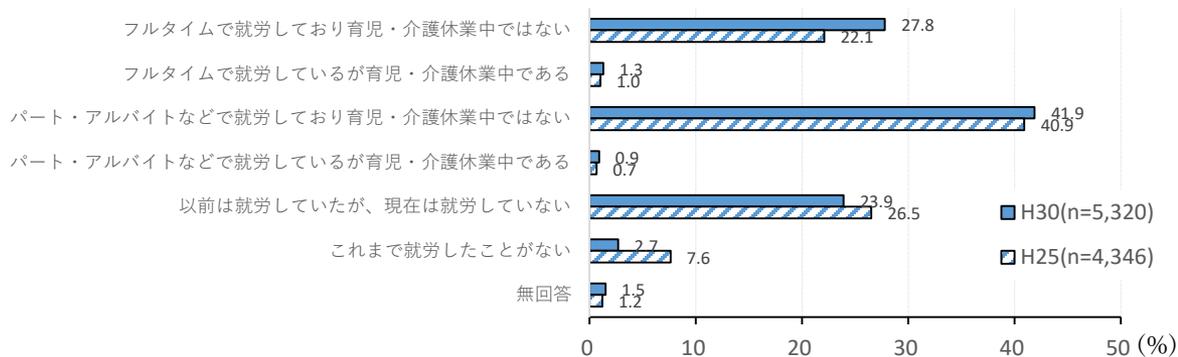
子育てや教育についての相談先 (H30-25比較)



母親の就労状況 (就学児童)

- ▶ 母親の現在の就労状況については、「パート・アルバイトなどで就労しており育児・介護休業中ではない」が41.9%で最も多く、次いで「フルタイムで就労しており育児・介護休業中ではない」が27.8%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が23.9%となっている。

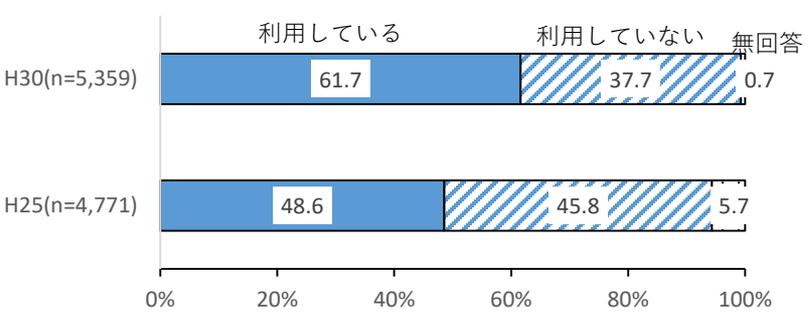
母親の就労状況 (H30-25比較)



放課後の居場所を提供する事業の利用状況

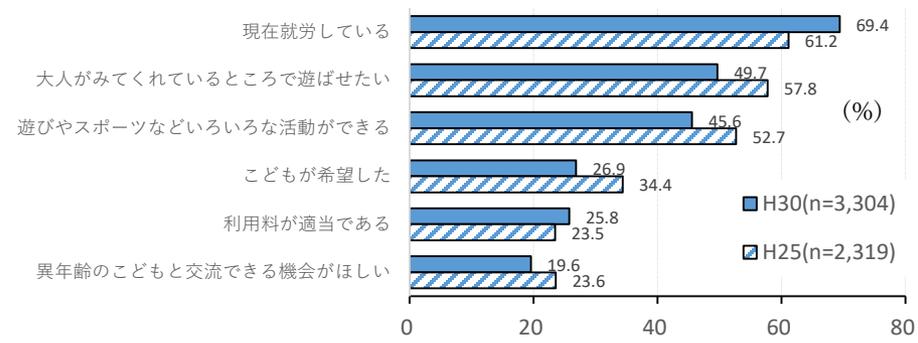
- 放課後の居場所を提供する事業の利用状況には、「利用している」が61.7%、「利用していない」が37.7%となっている。
- 平成25年調査の結果と比べると、「利用している」の割合が13.1%高くなっている。

放課後の居場所を提供する事業の利用状況 (H30-25比較)



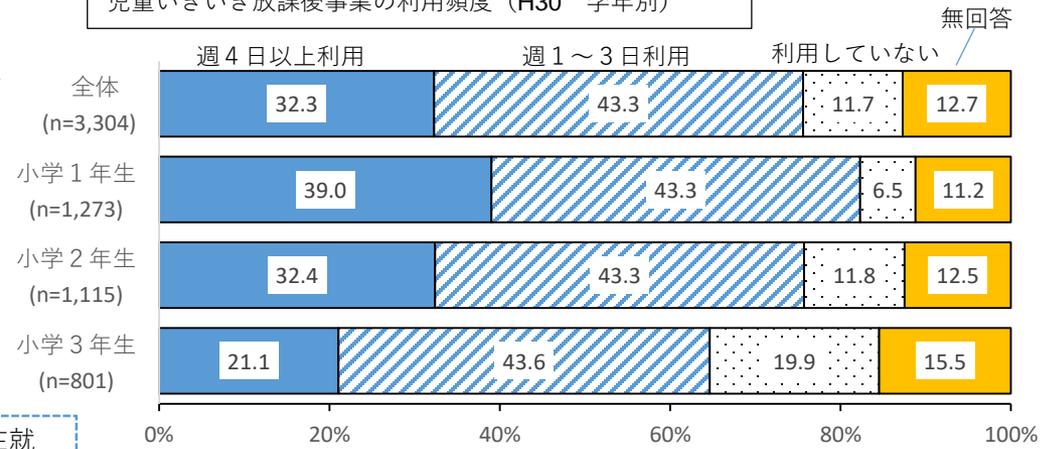
- 放課後の居場所を提供する事業を利用している理由は、「現在就労している」が69.4%で最も多く、次いで「大人がみてくれているところで遊ばせたい」が49.7%、「遊びやスポーツなどいろいろな活動ができる」が45.6%となっている。
- 平成25年調査の結果と比べると、「現在就労している」のポイントが高くなっている。

放課後の居場所を提供する場所を提供する事業を利用している理由 (H30-25上位6項目)



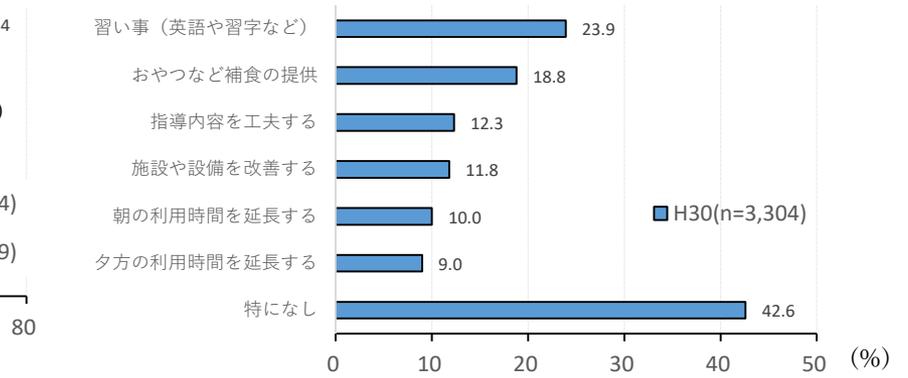
- 児童いきいき放課後事業の利用頻度は、平日は「週1~3日利用」が43.3%で最も多く、次いで「週4日以上利用」が32.3%となっている。「週1~3日利用」と「週4日以上利用」をあわせた『利用している』が75.6%となっている。
- 年齢別にみると、学年が上がるにつれて利用頻度が少なくなっている。

児童いきいき放課後事業の利用頻度 (H30 学年別)



- 事業者希望することは、「特になし」が42.6%で最も多いが、希望することがある人では「習い事(英語や習字など)」が23.9%で最も多く、次いで「おやつなど補食の提供」が18.8%、「指導内容を工夫する」が12.3%となっている。

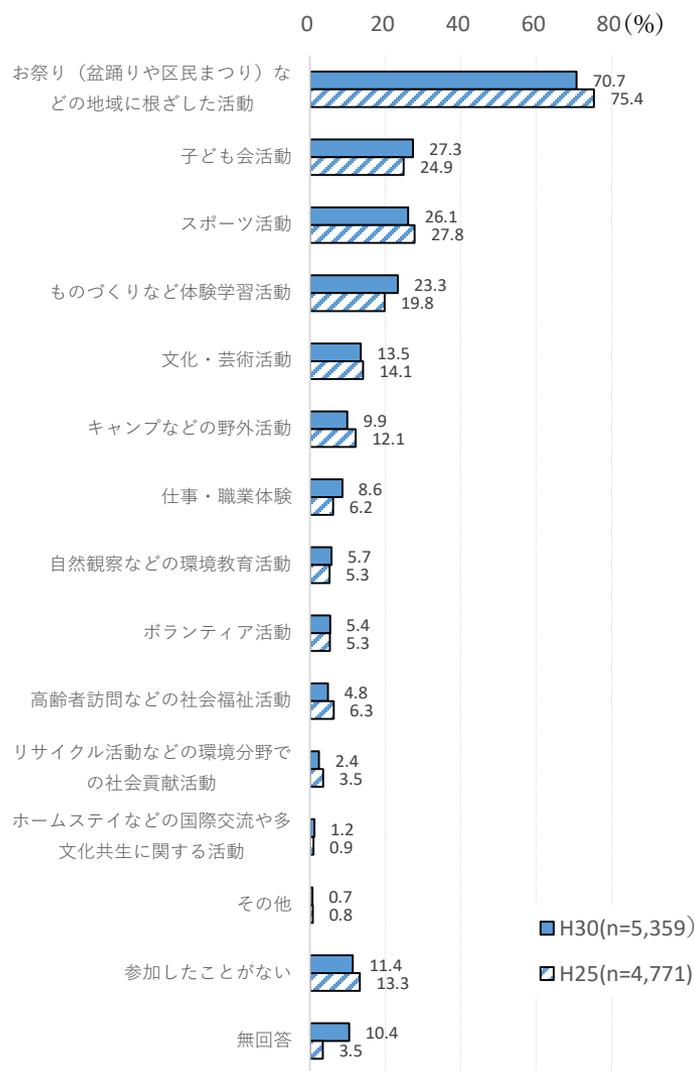
事業者希望すること (H30上位6項目)



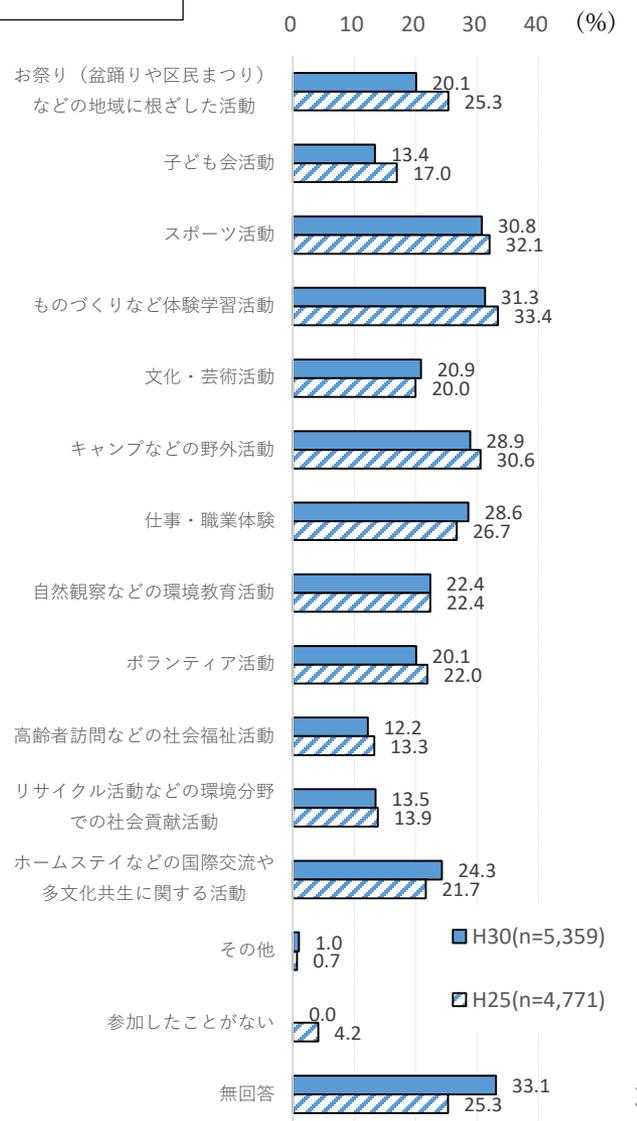
地域のグループ活動やイベントの参加状況

- ▶ 参加したことがある活動については、「お祭り（盆踊りや区民まつり）などの地域に根差した活動」が70.7%で最も多く、次いで「子ども会活動」が27.3%、「スポーツ活動」が26.1%となっている。
- ▶ 今後参加させたい活動については、「ものづくりなど体験学習活動」が31.3%で最も多く、次いで「スポーツ活動」が30.8%、「キャンプなどの野外活動」が28.9%となっている。

参加したことがある活動（H30-25比較）



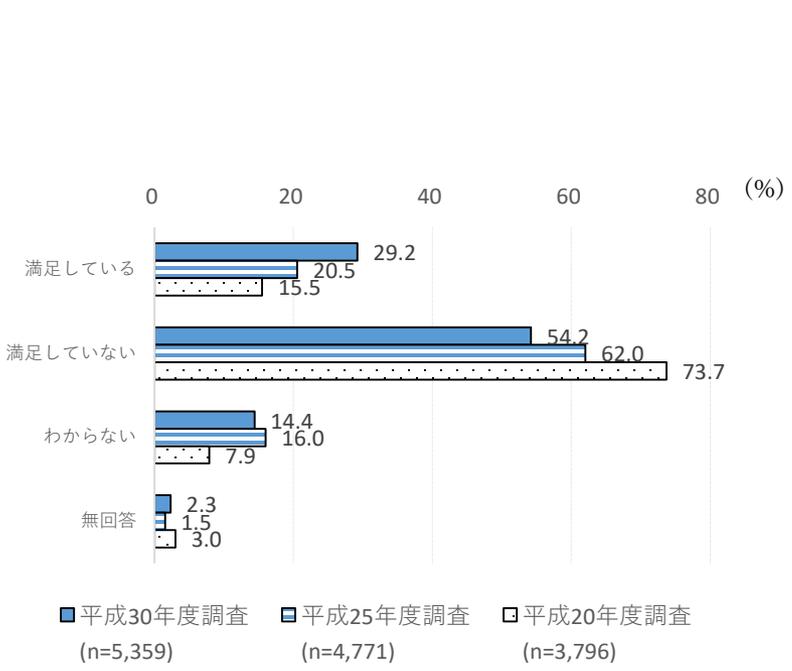
今後参加させたい活動（H30-25比較）



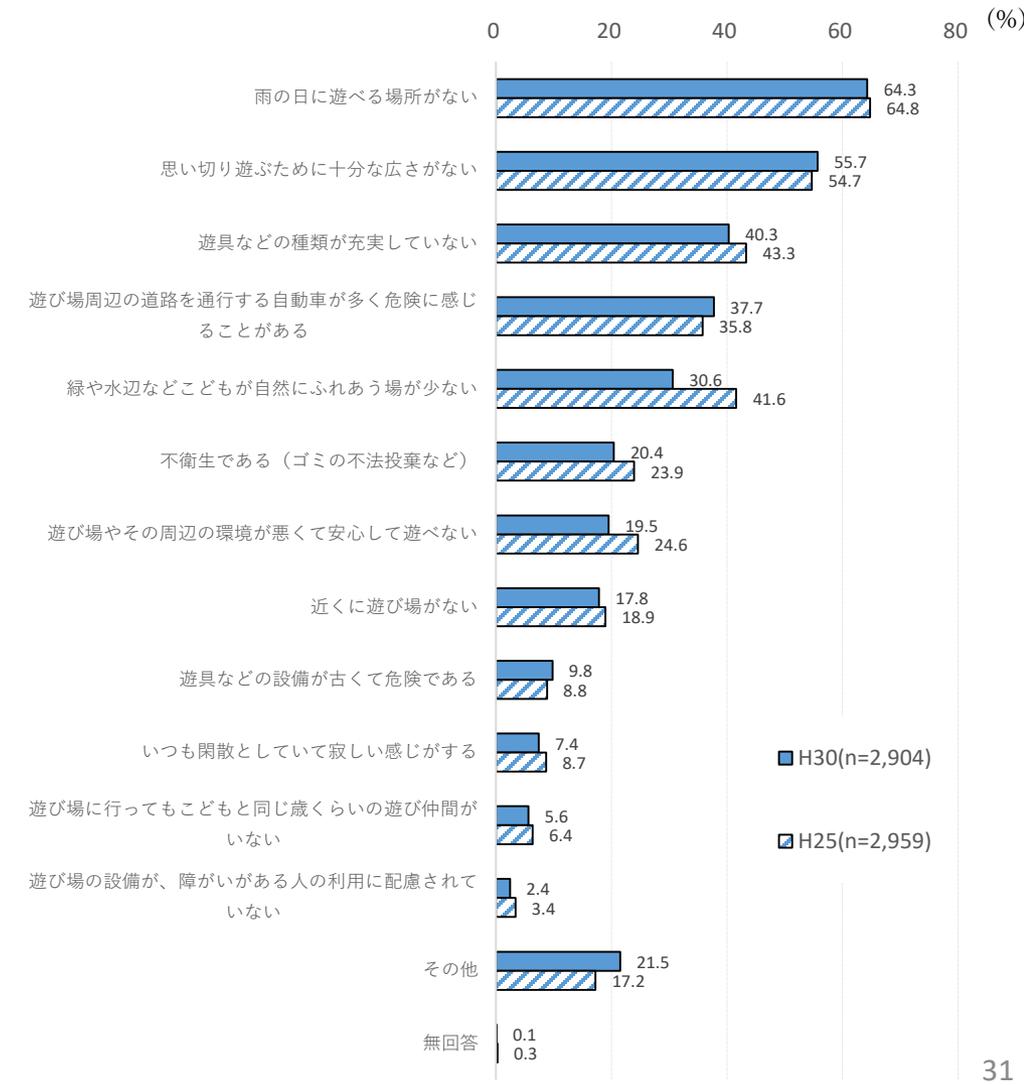
子育て環境①

- ▶ こどもの遊び場に関する満足度については、「満足している」が29.2%、「満足していない」が54.2%となっている。
- ▶ 平成20年及び平成25年調査の結果に比べ、「満足している」の割合が高くなっている。
- ▶ こどもの遊び場に日ごろ不満を感じていることについては、「雨の日に遊べる場所がない」が64.3%で最も多く、次いで「思い切り遊ぶために十分な広さがない」が55.7%、「遊具などの種類が充実していない」が40.3%となっている。

こどもの遊び場に関する満足度 (H30-25-20比較)



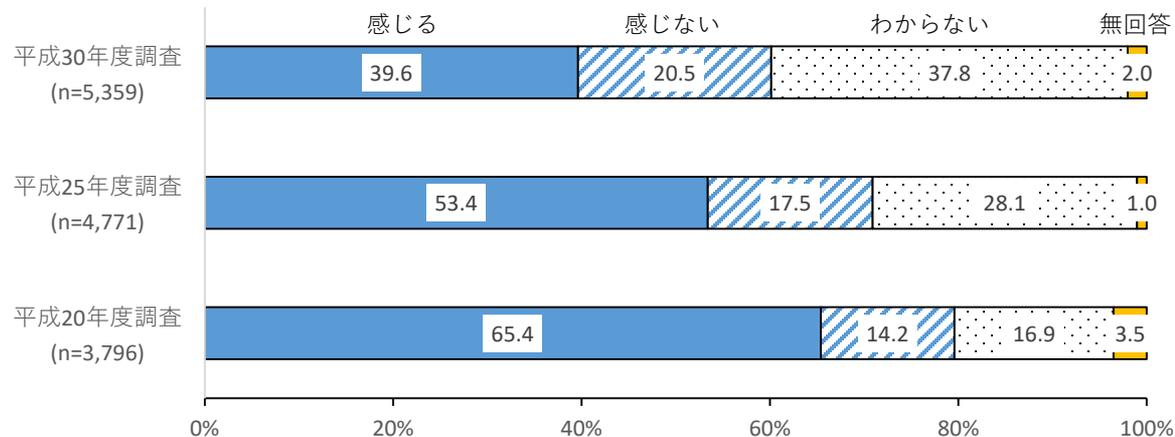
こどもの遊び場に日ごろ不満を感じる事 (H30-25比較)



子育て環境②

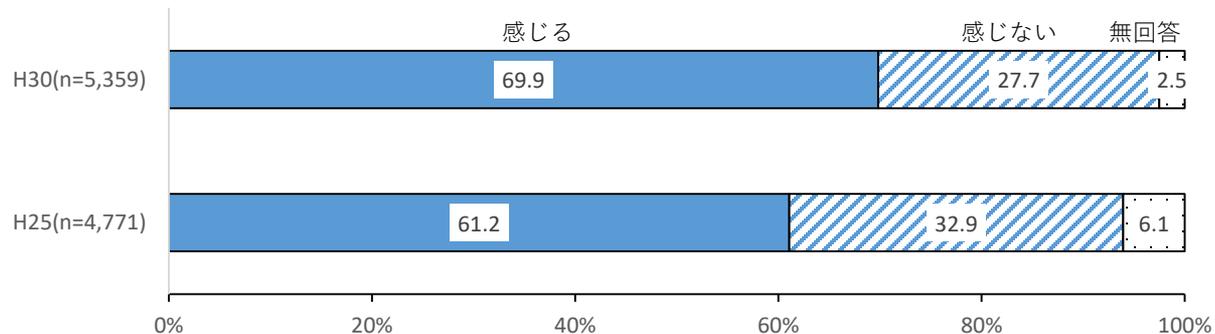
- こどもが巻き込まれる事故や犯罪が増加していると感じるかについては、「感じる」が39.6%で最も多く、「感じない」が20.5%となっている。
- 平成20年及び平成25年調査の結果に比べ、「感じる」の割合が低くなっている。

こどもが巻き込まれる事故や犯罪が増加していると感じるか（H30-25-20比較）



- 子育てが地域の人や社会に支えられていると感じるかについては、「感じる」が69.9%、「感じない」が27.7%となっている。
- 平成25年調査の結果と比べると、「感じる」は平成25年調査（61.2%）より8.7ポイント高くなっている。

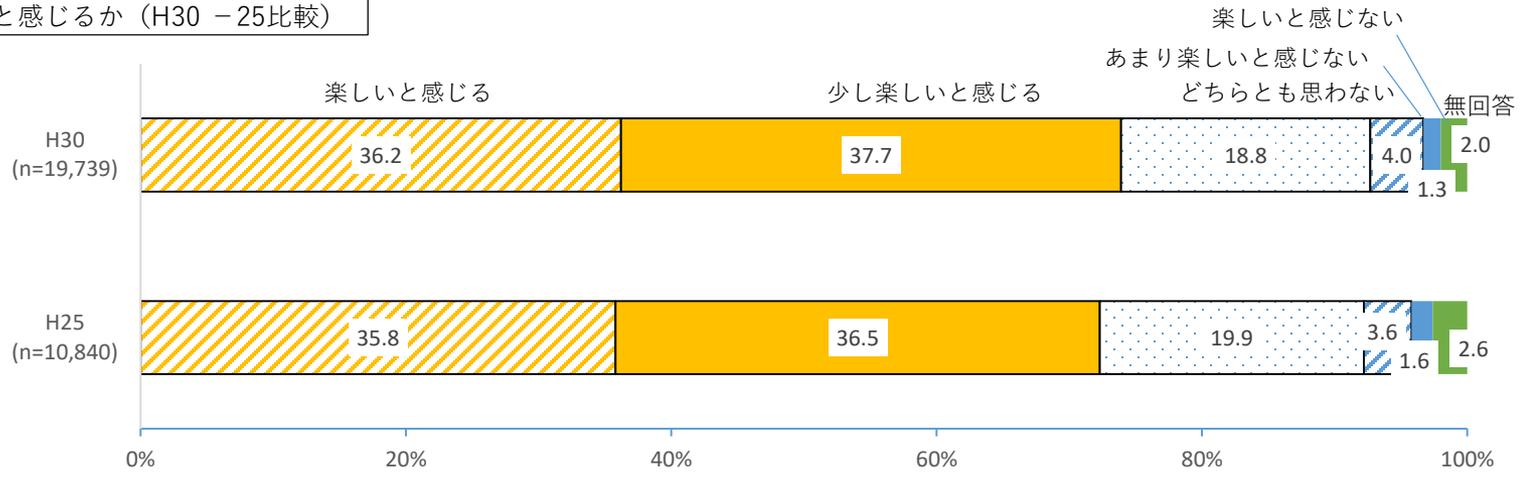
子育てが地域の人や社会に支えられていると感じるか（H30-25比較）



子育てについての楽しさや負担感の程度

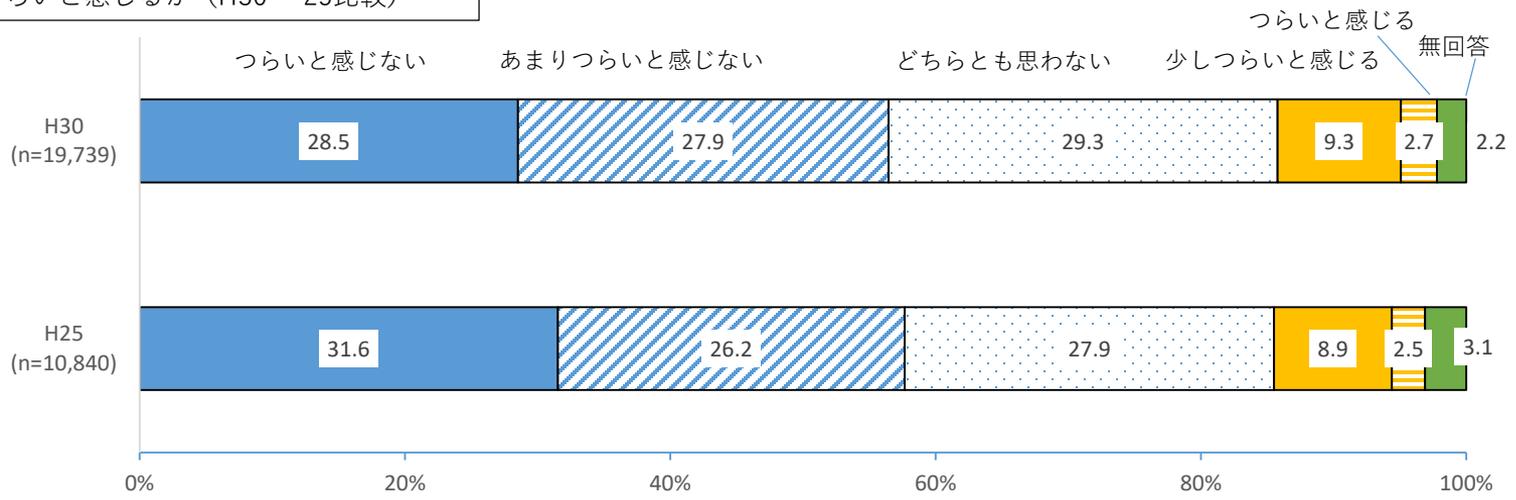
➤ 子育てを楽しんでいるかについては、「少し楽しいと感じる」が37.7%で最も多く、次いで「楽しいと感じる」が36.2%で、両者をあわせた『楽しいと感じる』は73.9%となっている。

子育てを楽しんでいるか (H30 - 25比較)



➤ 子育てをつらいと感じるかについては、「どちらとも思わない」が29.3%で最も多い。
 ➤ 「あまりつらいと感じない」(27.9%)と「つらいと感じない」(28.5%)をあわせた『つらいと感じない』は56.4%となっている。
 ➤ 平成25年調査の結果に比べて、『つらいと感じない』は3.1%低くなっている。

子育てをつらいと感じるか (H30 - 25比較)



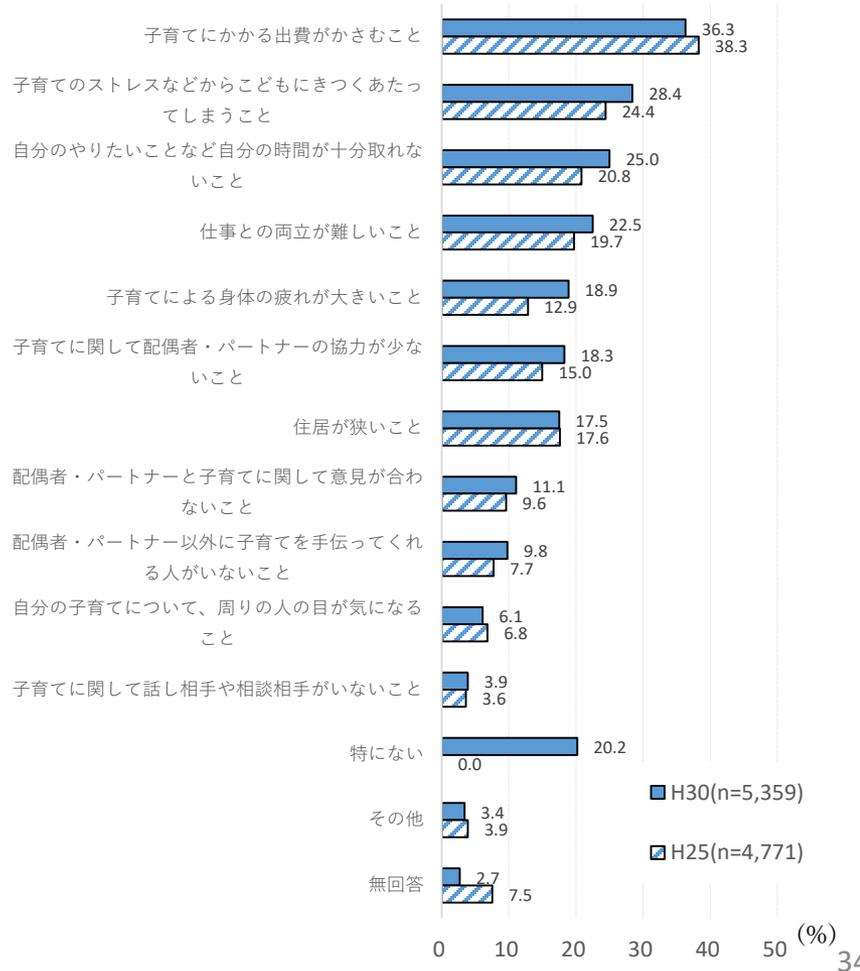
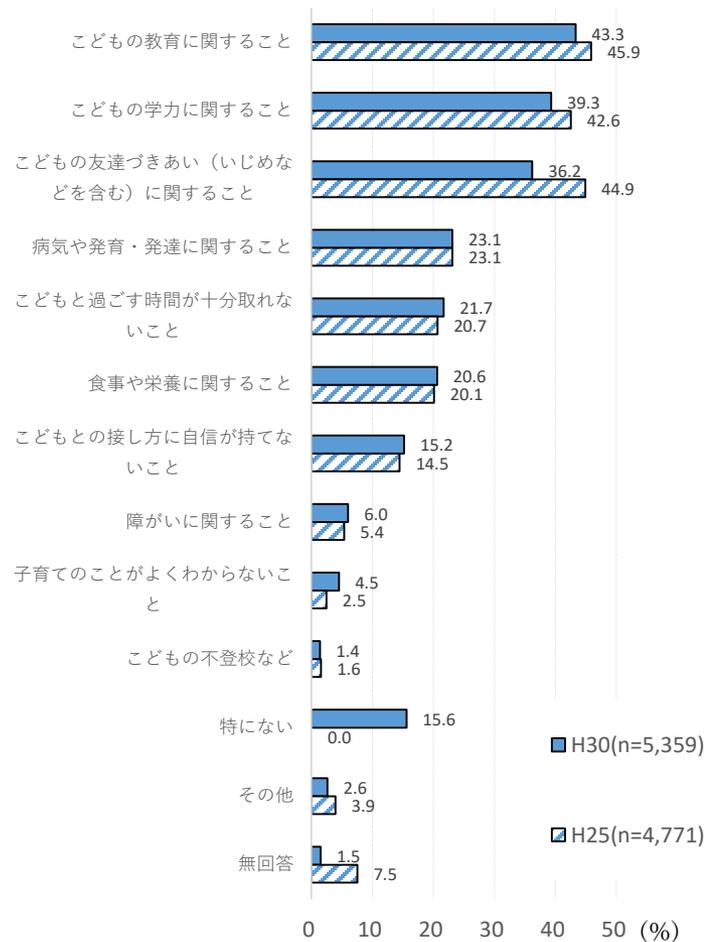
子育てに関する悩み

▶ 子育てに関する悩みについては、「こどもの教育に関する事」が43.3%で最も多く、次いで「こどもの学力に関する事」が39.3%、「こどもの友達づきあい（いじめなどを含む）に関する事」が36.2%となっている。

▶ 子育てに関する保護者自身の悩みについては、「子育てにかかる出費がかさむこと」が36.3%で最も多く、次いで「子育てのストレスなどからこどもにきつくあたってしまうこと」が28.4%、「自分のやりたいことなど自分の時間が十分とれないこと」が25.0%となっている。

子育てに関する悩み (H30-25比較)

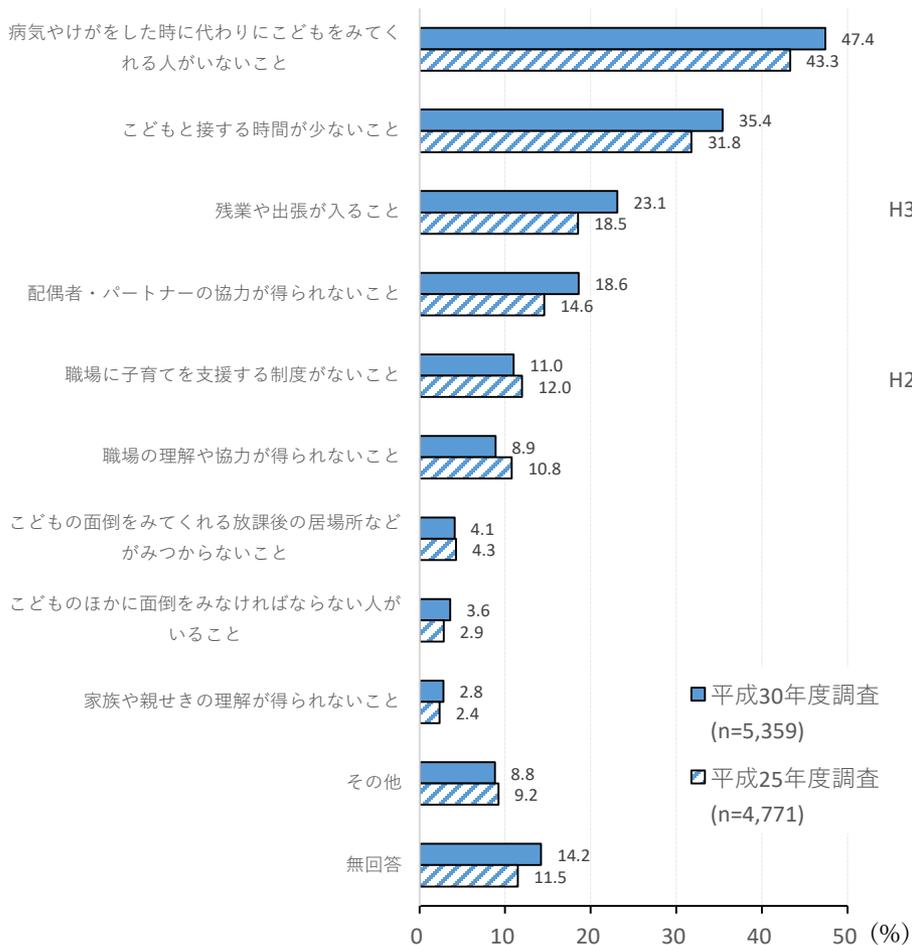
保護者に関する悩み (H30-25比較)



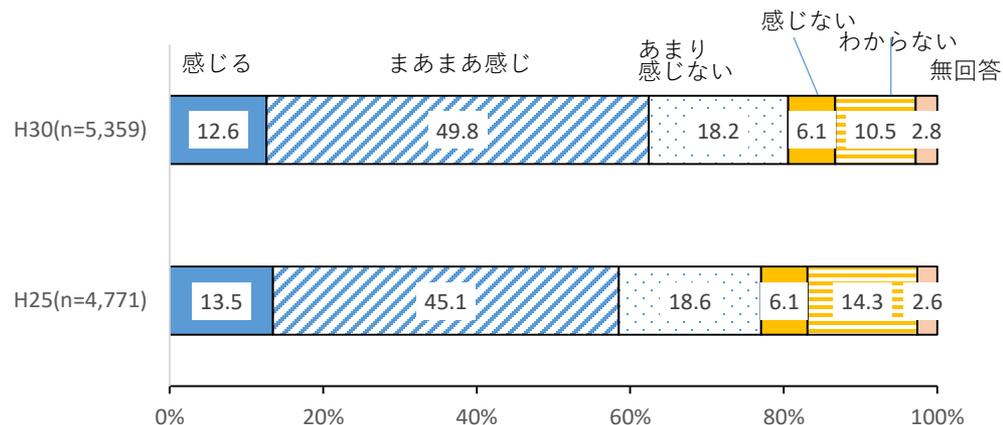
仕事と子育てを両立させる上で大変なこと

- 仕事と子育てを両立させる上で大変なことは、「病気やけがをした時に代わりに子どもをみてくれる人がいないこと」が47.4%で最も多く、次いで「子どもと接する時間が少ないこと」が35.4%、「残業や出張が入ること」が23.1%となっている。
- 仕事と生活の調査が図られていると感じるかは、「まあまあ感じる」が49.8%で最も多く、「感じる」（12.6%）をあわせた『感じる』は62.4%となっている。

仕事と子育てを両立させる上で大変なこと
(H30-25比較)



仕事と生活の調和が図られていると感じるか (H30-25比較)



行政に対して充実を図ってほしい子育てに関する支援策

- 行政に対して充実を図ってほしい子育てに関する支援策は、「親子が安心して集まれる公園などの屋外の施設を整備する」が51.7%で最も多く、次いで「育児休業給付の拡充などの子育て世帯への経済的援助の拡充」が45.7%、「小児救急等安心してこどもが医療機関を利用できる体制を整備する」が44.4%となっている。
- 平成20年及び平成25年調査の結果に比べ、「育児休業給付の拡充などの子育て世帯への経済的援助の拡充」や「小児救急等安心してこどもが医療機関を利用できる体制を整備する」のポイントが低くなっている（改善している）。

行政に対して充実を図ってほしい
子育てに関する支援策（H30-25-20比較）

